

学習院大学所蔵, 磐梯火山 1888 年噴火の写真

千葉 茂樹*

The photographs of the Gakushuin University after the 1888 eruption of Bandai volcano, Northeast Japan

CHIBA Shigeki*

Abstract On July 15th in 1888, on Bandai volcano, a small steam eruption happened in the top of the mountain. After that, a volcanic body collapsed on the north side, and the debris flow mainly went down the north foot, with some at the southeastern foot. As for the investigation thesis of this eruption, there are Sekiya and Kikuchi (1889), and many others. The photographs of the eruption of the Bandai volcano from this eruption are taken by Iwata Zenbei, Endo Rikuro, W.K.Burton, Tanaka Miyoji, although the photographers of some photographs are unclear. These photographs are kept in Fukushima prefectural library, the National Science Museum, the Imperial Household Agency, the Fukushima prefectural museum (Osako *et al.* 2003: Chiba *et al.* 2004: Takebe・Nakamura 2000: Chiba・Sato 2007a・b). Recently, it was confirmed that the photographs of the eruption of Bandai volcano in 1888 existed in the Gakushuin university library and materials palace (Gakushuin university materials palace 2006).

This thesis has shown two sheets of photographs 「226」「231」 of the eruption of Bandai volcano in 1888 under the Gakushuin university, and compared them with the photographs of another person. The result is that sheet “226”, it found that in the photography place and the direction were “towards the east (Kushigamine) from the west wall of the explosion crater by 1888 eruption”, and photography time was “between August and October, 1888”. Regarding sheet “231”, it was found that the photography place and the direction of the photographs were “from Inawashiro-machi Mine, toward the northeastern direction”, and the time of the photographs was “about at July 23, 1888”.

Key Words : Gakushuin university, Bandai volcano, photograph, volcanic disaster, 1888, eruption

はじめに

磐梯火山は、1888年(明治21年)7月15日、山頂部で発生した小規模な水蒸気爆発をきっかけに山体北側が崩壊し、岩屑なだれが主に北麓の一部が南東麓に流下した。この山体崩壊の調査報告は Sekiya and Kikuchi (1889) など多数ある。

また、噴火直後の写真は、岩田善平氏・遠藤陸郎氏・W. K. Burton 氏・田中美代二氏(後述)撮影および撮影者不明のものが現存している。これらの写真は、福島県立図書館・国立科学博物館・宮内庁書陵部・福島県立博物館などに保管されている(大迫ほか 2003, 千葉ほか 2004, 武部・中村 2000, 千葉・佐藤 2007a・b)。このうち千葉ほか(2004)は、国立科学博物館の所蔵写真についてスライド枠に記載された識別記号から作者を推定した。この中で識別記号「田」については不明とした。その後資料を調査した結果、噴火直後を撮影したカメラマンに田中美代二氏の名があった(北原 1998, 小椋 2000 など)。このため、識別記号「田」は田中美代二氏と推定する。また、岩田善平氏撮影とされている写真について米地文夫氏は「菊地喜雄氏撮影である可能性が高い」と指摘している(米地 2006)。本論では、米地氏の見解が確定していないため、従来どおり岩田善平氏撮影として記載する。

さらに最近では、学習院大学図書館・史料館に磐梯火山 1888 年噴火の写真が存在することが確認された(学習院大学史料館 2006)。本論では、学習院大学に保管されている磐梯火山 1888 年噴火の写真 2 枚について、撮影位置・撮影時期などを、現存する写真と比較し、検討する。

学習院大学所蔵写真

学習院大学図書館・史料館には日本における写真の黎明期以降の写真が保管されている。これらの写真の一部は学習院大学の企画展などで紹介されてきた。2006年、学習院大学史料館はこれらを一括して「写真集 明治の記憶—学習院大学所蔵写真」(以下、「明治の記憶」: 学習院大学史料館 2006)として出版した。この書籍の解説には、「学習院大学図書館・史料館に保管されている写真の内、明治期のものだけを出版した」と記載されている。入手経路については、「皇族・華族家より寄贈、軍関係者からの寄贈、購入など多岐で

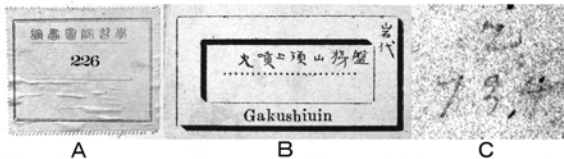
2007年10月19日受付。2008年1月17日受理。

*福島支部, 福島県立保原高等学校, 〒960-0604 福島県伊達市保原町元木 23.
Fukushima Branch, Hobara High School, 23, Motoki, Hobara, Date, Fukushima, 960-0604, Japan



第1図 学習院大学図書館・史料館所蔵「226 岩代 磐梯山頂上噴火」

Fig. 1 The photograph sheet which the Gakushuin university library and materials palace keeps is "No.226. The region of Iwashiro. The top of the Bandai volcano, after the eruption."



第2図 台紙裏面のラベル。A: 中央「学習院図書館 226」。B: 左下「岩代 磐梯山頂上噴火 Gakushuin」。C: 右下「乙 134」

Fig. 2 The labels on the back of the mount: A: In the center. "The Gakushuin university library. 226". B: In the bottom left. "The region of Iwashiro. The top of the Bandai volcano, after the eruption. Gakushuin". C: In the bottom right "Otsu 134".

ある」と記載されている。また、資料番号については、「明治39年6月30日付で、この日以前の写真をまとめて登録(資料番号74~303)したものである」と記載されている。このうち、磐梯火山1888年の写真は資料番号「226」「231」の2枚掲載されている。さらに、撮影者に関する記載は、「明治の記憶」にも、後述の目録にもなかった。

なお、2007年8月28日、著者は学習院大学図書館において磐梯火山1888年噴火の写真および目録を拝見させていただいた。その際、目録にはもう1枚の写真「227」の記載があり「所在不明」とされていた。

資料の状態、複写および処理

学習院大学に保管されている磐梯火山の写真(資料番号「226」「231」)の複写は、2007年8月28日学習院大学図書館において、デジタル複写不許可のため、35mmカラーネガフィルムで行った。オリジナル写真は印画(プリント)であった。状態は明治期のものとしては良好であったが、全体にやや黄ばみが見られ、画像濃度の不均一(不均一な劣化)及び斑点(酸化銀の浮き出し)が見られ、また印画が貼り付けられた台紙ともどもカーリングが著しかった。特に1888年爆裂火口を写した「231」は劣化が進んでいた。著者は、複写をした35mmフィルム画像をフィルムスキャナでデジタル

化し、パソコン上で修復を行った。修復内容は、不均一な濃度の均一化、傷・斑点の解消である。傷・斑点の解消は科学写真のため、主に目立つ部分の修復にとどめた。また、比較に使った1888年磐梯火山噴火の写真についても、同様な処理を施した。

資料番号「226」、 「岩代 磐梯山頂上噴火」

第1図は、学習院大学図書館・資料館の資料番号「226」である。写真は印画(プリント)で、台紙に貼り付けられている。台紙の大きさは縦275mm×横347mm、写真の大きさは縦203mm×横263mmである。台紙には墨で「東山道」と書かれている。また、台紙裏面中央にはラベルが貼ってあり「学習院図書館 226」と印刷・記載されている(第2図A)。さらに裏面左下には「岩代 磐梯山頂上噴火 Gakushuin」と記載・印刷されている(第2図B)。さらに裏面右下には鉛筆書きで「乙 134」と記載されている(第2図C)。この鉛筆書きは、経年変化のためか、見にくくなっている。また、「明治の記憶」の解説には「表題のとおり、磐梯山上の火口から噴気が立ち上がる写真で、大爆発後すぐの写真と推定できるが、その撮影者、経緯は不明」と記載されている。

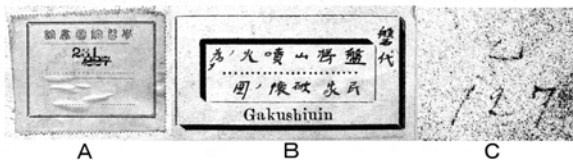
資料番号「231」、表題「磐代 磐梯山噴火ノ為メ民家破懐ノ図」

第3図は、学習院大学図書館・史料館資料番号「231」である。写真は印画(プリント)で、台紙に貼り付けられている。台紙の大きさは縦275mm×横347mm、写真の大きさは縦203mm×横263mmである。台紙には墨で「東山道」と書かれている。また、台紙裏面中央にはラベルが貼ってあり「学習院図書館 231 227」と印刷・記載されている(第4図A)。さらに裏面左下には「磐代 磐梯山噴火ノ為メ民家破懐ノ圖 Gakushuin」と記載・印刷されている(第4図B)。さらに裏面右下には鉛筆書きで「乙 127」と記載されてい



第3図 学習院大学図書館・史料館資料番号「231 磐代 磐梯山噴火ノ為メ民家破壊ノ圖」

Fig. 3 A photograph which the Gakushuin university library and materials palace keeps, "No.231. The region of Iwashiro. A photograph of a private house demolished by the eruption of Bandai volcano."



第4図 台紙裏面のラベル。A: 中央「学習院図書館 231 227」。B: 左下「磐代 磐梯山噴火ノ為メ民家破壊ノ圖 Gakushiuin」。C: 右下「乙 127」

Fig. 4 The labels on the back of the mount: A: In the center, "The Gakushuin university library. 231 227". B: In the bottom left, "The region of Iwashiro. A photograph of a private house demolished due to the eruption of Bandai volcano. Gakushiuin". C: In the bottom right "Otsu 127".

る(第4図C)。この鉛筆書きは、経年変化のためか、見にくくなっている。さらに、写真自体の右下に白文字で「127」と書き込まれている(第3図参照)。また、「明治の記憶」の解説には「荒涼とした大地の中に半壊した茅葺民家がむき出しで立つ写真で、地域は不明。倒壊した建築材や樹木が若干取り片付けられている様子が見えるから、同年秋頃の撮影だろうか」と記載されている。

解析と検討

第5図は地形図で、資料番号「226」「231」の推定撮影位置・方向を示した。

資料番号「226」

資料番号「226」は、1888年爆裂火口西端から^{くしがみね}櫛ヶ峰方向を撮影したものである。中央奥には櫛ヶ峰、右端には1888年爆裂火口西端の絶壁が写っている。画面右端中央やや上から左端やや下にかけて直線状に噴煙の列が見える。同じ方向を写した写真は、遠藤陸郎氏撮影「第2号 磐梯山ノ中麓ヨリ破裂口ヲ望ムノ真景」(第6図, 福島県立図書館蔵)、撮影者不明「整理番号 65 小磐梯山破裂跡乃断崖」(第7図, 宮

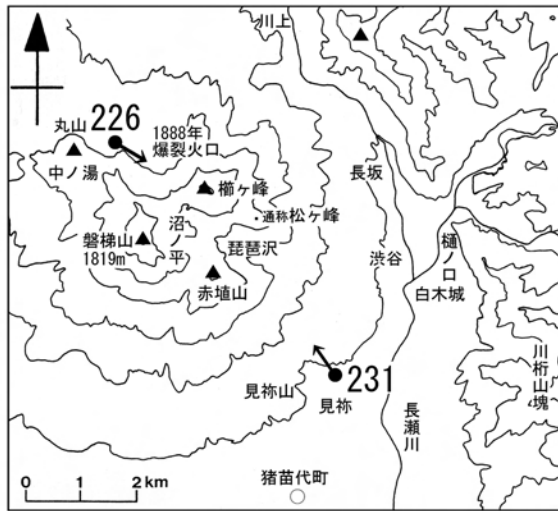
内庁書陵部蔵)および岩田善平氏撮影「15号 7月19日 大磐梯山ヨリ櫛ヶ峰ヲカケテ噴火口ヲ写ス」(第8図, 福島県立博物館寄託: 竹内邦子氏提供)が現存する。

これらの画像を地形・方向・視線の位置から検討し、それぞれの撮影位置・方向を推定し第9図に示した。

撮影の時期は、遠藤陸郎氏撮影「第2号」(第6図参照)、宮内庁書陵部蔵「65」(第7図参照)および岩田善平氏撮影「15号」(第8図参照)に写っている噴煙が3枚とも同様に多量に立ち上っている状態からほぼ同じ時期の撮影と推定できる。また、記録に残っている撮影時期は、遠藤陸郎氏が「7月19日に仙台を出発(磐梯山に向かった)」、岩田善平氏が「7月19日」とされている(千世1989: 小桧山2000など)。以上のように、写真の噴煙の様子、撮影の記録日から、これら3枚の写真は1888年7月15日の噴火後10日以内と推定する。これに対して学習院大学所蔵「226」はこれらの写真と比べると噴煙の出方がやや弱い。したがって、撮影時期は噴火後やや時間を経てからと推定する。また、磐梯火山周辺では、冬季に多量の積雪がある。著者が猪苗代に居住した10年間では、11月上旬には磐梯山に積雪があった。しかし「226」には積雪は写っていない。以上から、学習院大学所蔵「226」は1888年の8月から10月の可能性が高い。

なお、宮内庁書陵部蔵「65」は撮影方向・写っている地形から1888年爆裂火口縁上からの撮影と推定できる。しかしながら画像(地形・撮影方角)から撮影位置を検討すると、現在の火口縁からでは、手前に火口縁が写りこみ櫛ヶ峰が写らない。したがって、撮影地点は現在の火口縁よりも北側(現在の火口内)になる。噴火後約120年で火口壁がかなり崩落したと推定できる。

また、岩田善平氏撮影「15号」は今回の検討により「裏焼き」であることがわかった。「磐梯山破裂セリ」(磐梯山噴



第5図 地形図。資料番号「226」「231」の推定撮影位置・方向

Fig. 5 The photography position and direction of the materials number "226" "231" are estimated and shown.

火百周年記念事業実行委員会百年部会 1988)「百年前の報道カメラマン」(千世 1989)「新磐梯紀行」(小松山 2000)は裏焼きのまま印刷している。第8図は左右を反転し、正常な状態にして掲示した。

資料番号「231」

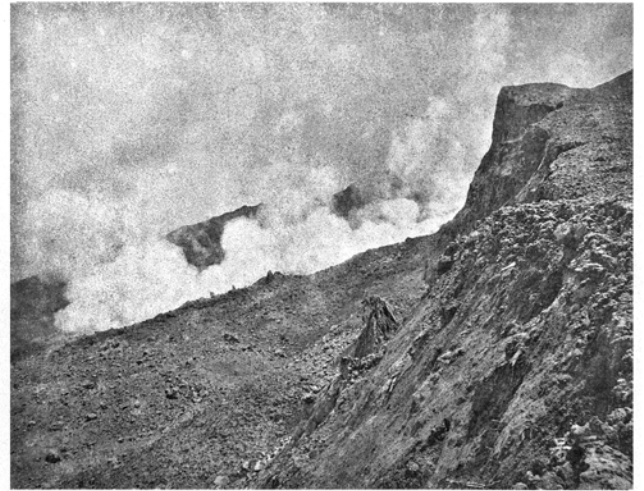
はじめに撮影地点について検討する。資料番号「231」(第3図参照)は、「明治の記憶」には「地域は不明」と記載されている。

「231」と類似する写真は国立科学博物館所蔵の写真「澁谷潰家」である(第10図, 大迫ほか 2003: 千葉ほか 2004)。国立科学博物館所蔵の写真はガラス版の陽画(スライド)で、写真の枠に「撮影者の略記号」「撮影地」などのメモ書きがある。この写真の枠には「バル」とあり、バートン(W. K. Burton)氏撮影と推定している(千葉ほか 2004)。

また、第11図は、フランス人画家ビゴー氏(George Ferdinand Bigot)のスケッチである(宇都宮美術館 1998)。このスケッチは「231」と酷似する。表題は「猪苗代 見禰村にて 1888年7月23日(Au village de Mine apres Eruption du mont Bandai, Inawashiro, le 23 juillet 1888)」である。このスケッチを見ると、背景に通称「松ヶ峰」(第11図①)が描かれており、場所は現在の「猪苗代町見禰」と特定できる。

以上から、資料番号「231」の撮影地は「見禰村(現在の猪苗代町見禰)」である。従って、ビゴー氏の記載の「見禰村」が正しく、国立科学博物館所蔵の写真のメモ書きの「澁谷潰家」は誤記である。

次に撮影時期について検討する。「231」とビゴー氏のスケッチの「家の屋根の壊れた状態」が類似する。したがって、ビゴー氏のスケッチは7月23日であることから、資料番号「231」の撮影時期は1888年7月23日前後と推定する。



第6図 福島県立図書館蔵、遠藤陸郎氏撮影「第2号 磐梯山ノ中麓ヨリ破裂口ヲ望ムノ真景」

Fig. 6 A photograph which Fukushima prefectural library keeps. This photograph was taken by Endo Rikuro, "No.2. Looked at the explosion crater from the middle foot of the Bandai volcano."

第12図は岩田善平氏撮影の写真「3号 7月16日 見禰村」である。この写真と、学習院大学所蔵写真資料番号「231」(第3図参照)およびビゴー氏のスケッチ(第11図参照)を比較する。家屋右側の被災部分の屋根が、第3図、第10図および第11図では骨材がむき出しであるが、第12図では茅葺屋根になっている。しかながら、被災家屋の煙抜き屋根(第3図②と第12図②)、特に茅を止めた板の突き出し方が類似する。さらに家屋裏の樹木(第11図③と第12図③)が類似する。

第13図は第3図と第12図の屋根の部分の拡大写真である。両者を比較すると、「イ」の茅止板の突き出た形、「ロ」の茅止板の下の黒い部分、「ハ」の板が斜めに出ている状態が酷似する。以上から、第3図、第10図、第11図及び第12図は同じ家屋で、第12図は被災翌日の1888年7月16日の状態、第3図・第10図・第11図は片付けおよび解体途上の7月23日前後の状態と推定する。

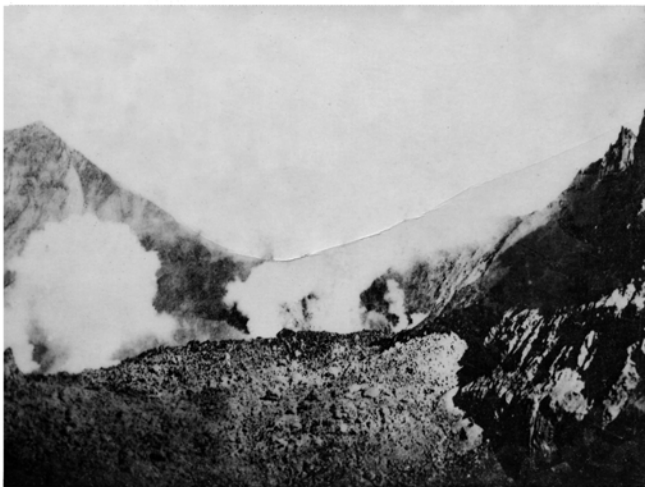
所在不明の資料番号「227」

2007年8月28日、学習院大学図書館において所蔵写真の目録を拝見させていただいた。目録には磐梯山1888年噴火に関わるもう1枚の写真、資料番号「227」の記載があり「所在不明」とされていた。

磐梯火山に関する写真、資料番号「226」「231」の裏面には、ラベルが2種貼り付けてあり(第2図、第4図参照)、さらに鉛筆書きの記号が付いている。これらの事実から、学習院大学図書館・史料館の写真の整理は、「番号ラベルをつけた整理」「鉛筆書きの番号をつけた整理」の少なくとも2回の整理が行われた可能性が高い。また、「明治の記憶」には「明治39年6月30日に資料番号(74~303)を付加した」と記載されている。「226」「231」の資料番号が、現在も使用されていること、明治39年の整理番号(74~303)の範囲内



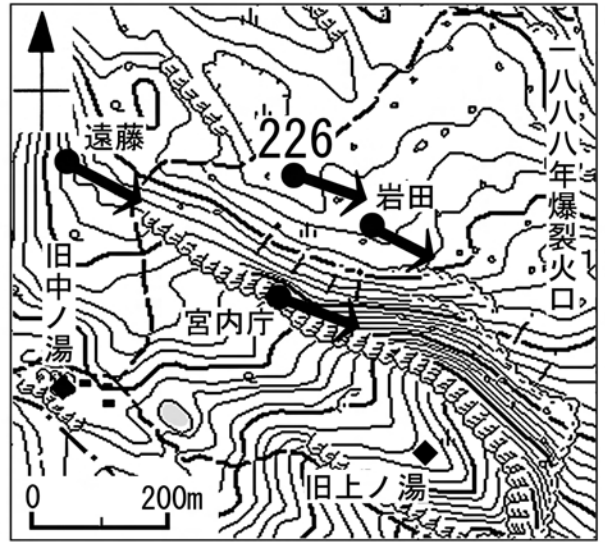
第7図 宮内庁書陵部蔵, 撮影者不明「65 小磐梯山破裂跡乃断崖」
Fig. 7 A photograph which the Imperial Household Agency keeps. The photographers of this is unknown. "No.65. This picture was taken of the crater wall after the Kobandaisan exploded."



第8図 福島県立博物館寄託, 岩田善平氏撮影「15号 7月19日 大磐梯山ヨリ櫛ヶ峰ヲカケテ噴火口ヲ写ス」(竹内邦子氏提供)

Fig. 8 This photograph was taken by Iwata Zenbei and is kept by the Fukushima prefectural museum. "No.15, on July 19, a photograph was taken of the Ohbandaisan(present Bandaisan) to the Kushigamine, in the explosion crater." (Permission from Takeuchi Kuniko)

にあること、の2点から、鉛筆書きの「乙134」「乙127」を付記された整理が先に行われ、次に資料番号「226」「231」を付記した整理が明治39年6月30日に行われたと推定する。



第9図 「226」ほかの推定撮影位置・方向. 「遠藤」: 福島県立図書館蔵, 遠藤陸郎氏撮影「第2号」. 「宮内庁」: 宮内庁書陵部蔵, 撮影者不明「65」. 「岩田」: 福島県立博物館寄託, 岩田善平氏撮影「15号 7月19日」. 国土地理院発行1/2.5万 地形図「磐梯山」使用.

Fig. 9 In this figure, the photography position and direction of the photographs such as "226" were estimated. 「遠藤」: This photograph is "No.2" of Endo Rikuro photography, kept Fukushima prefectural library 「宮内庁」: The photographer of 「65」, which the Imperial Household Agency keeps, is unknown. 「岩田」: This photograph is "No.15, on July 19" from Iwata Zenbei photography, kept at Fukushima prefectural museum. Before the preparation of this figure, the 1/25000 topographical map "Bandaisan" of the Geographical Survey Institute issue was used.

また、「231」のラベルには「227」の記載がある。したがって、現在の「231」は、はじめ「227」と記載された後に「231」と訂正された可能性が高い。このとき目録には最初に「227」「磐梯山」と記載され、その後「227」から「231」に訂正されたのではないかと推定する。以上から、図書館・史料館の目録にある所在不明の「227」は、現存する「231」の可能性が高い。

まとめ

学習院大学図書館・史料館に保管されている磐梯火山1888年の噴火の写真2枚「226」「231」について、「撮影地点」「撮影月日」ほかの解析・検討を行った。その結果、「226」について、撮影場所・方向は「1888年爆裂火口西壁より東方向(櫛ヶ峰)」、時期は「1888年8月から10月ころ」と結論した。また、「231」について、撮影場所・方向は「猪苗代町見祢、北東方向に向かって撮影」、時期は「1888年7月23日前後」と結論した。

またこれらの写真の検討の際、岩田善平氏撮影の写真「15号」は「裏焼き」であることがわかった。さらに、国立科学博物館所蔵バートン(W. K. Burton)氏撮影写真の枠のメモ書きの「澁谷潰家」は誤記で、撮影地は「猪苗代町見祢」で



第10図 バートン (W. K. Burton) 氏撮影の「澁谷潰家」(国立科学博物館所蔵)。陽画、彩色。

Fig. 10 This is the photograph, "The house where Shibutani suffered", taken by W.K.Burton (kept by the National Science Museum). Positive photograph. A photograph is painting.



第11図 フランス人画家ビゴー氏 (George Ferdinand Bigot) のスケッチ、「猪苗代 見禰村にて 1888年7月23日 (Au village de Mine après Eruption du mont Bandai, Inawashiro, le 23 juillet 1888)」(宇都宮美術館, 1998: 宇都宮美術館蔵)。彩色。

Fig. 11 A French artist, George Ferdinand Bigot, drew this sketch. It was drawn in Mine-mura on July 23, 1888. "Au village de Mine après Eruption du mont Bandai, Inawashiro, le 23 juillet 1888". Utsunomiya museum, 1998: kept by Utsunomiya museum" Color.

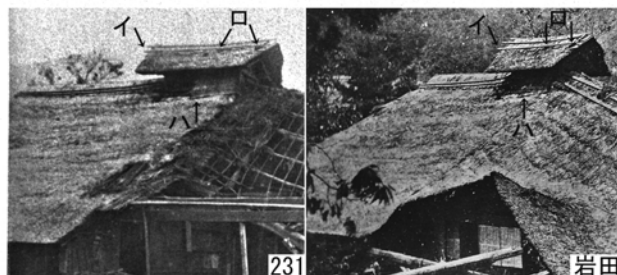
あることがわかった。同じく国立科学博物館所蔵の写真の撮影者の一人は「田中美代二氏」と推定した。

謝辞 本論作成にあたり、学習院大学図書館・史料館、宮内庁書陵部、福島県立図書館、国立科学博物館の大迫正弘氏および喜多方市の竹内邦子氏から写真掲載の許可をいただいた。さらに宇都宮美術館からビゴー氏のスケッチの掲載の許可をいただいた。また、執筆に当たり学習院大学図書館の工藤晶子氏、白石和徳氏には資料の複写等でご協力をいただいた。さらに日本大学文理学部の竹本弘幸氏には資料収集に関してご協力をいただいた。さらに、福島県立保原高等学校の平木恵里子氏、Alex.R.Bullard氏には英文要旨の作成に協力をいただいた。ここに謝意を表す。



第12図 福島県立博物館寄託、岩田善平氏撮影「3号 7月16日見禰村」(竹内邦子氏提供)

Fig. 12 This picture was taken by Iwata Zenbeinand, and is kept by the Fukushima prefectural museum. "No.3. On July 16, Mine-mura" (Permission from Takeuchi Kuniko)



第13図 第3図と第12図の屋根の部分の比較写真。

Fig. 13 This figure is a comparison of the roofs of Fig.3 and Fig.12.

文献

- 磐梯山噴火百周年記念事業実行委員会百年史部会 (1988) 記録写真集 磐梯山破裂セリ。歴史春秋出版、会津若松、311p.
- 千葉茂樹・佐藤 公 (2007a) 宮内庁所蔵、磐梯火山 1888 年噴火の写真と現存家屋。地球科学。61: 203-208.
- 千葉茂樹・佐藤 公 (2007b) 宮内庁所蔵、磐梯火山 1888 年噴火の写真。地球科学。61: 175-177.
- 千葉茂樹・大迫正弘・佐藤 公 (2004) 磐梯山 1888 年噴火の写真。地球科学。58: 135-137.
- 千世まゆ子 (1989) 磐梯山大噴火を激写 百年前の報道カメラマン。講談社。東京。222 p.
- 学習院大学史料館 (2006) 写真集 明治の記憶—学習院大学所蔵写真。吉川弘文館。東京。230 p.
- 北原糸子 (1998) 磐梯山噴火 災異から災害の科学へ、吉川弘文館。東京。270 p.
- 小桧山六郎 (2000) 新磐梯紀行 ルポルタージュ・明治 21 年の磐梯山噴火。歴史春秋社。会津若松。311 p.
- 大迫正弘・佐藤公・細馬宏通 (2003) 磐梯山噴火の幻灯写真、国立科学博物館研究報告 E 類 (理工学)。26: 1-9.
- Sekiya K. and Kikuchi Y (1889) The eruption of Bandai-san. Jour Coll Sci mp niv Japan. 3: 91-172.
- 武部敏夫・中村一紀 (2000) 明治の日本—宮内庁書陵部所蔵写真—。吉川弘文館。東京。440 p.
- 宇都宮美術館 (1998) ビゴー展図録。宇都宮美術館。宇都宮。191 p.
- 米地文夫 (2006) 磐梯山爆発。古今書院。東京。201 p.